



## 歯学部創設30周年

発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

### 昭和大学歯学部は創設30周年を迎えます。

南雲 正男 教授, 佐々 龍二 教授,  
倉地 洋一 教授のご退任にあたって

歯科病院長 川和 忠治

南雲, 佐々, 倉地先生, 長い間  
ご苦労様でした。

3人の先生とも東京医科歯科  
大学の出身で, 昭和大学歯学部  
の創設期から貢献された先生で  
いらっしゃいます。

南雲, 倉地先生は卒業年度こ  
そ違え, 共に母校の口腔外科学  
教室を経て医学部歯科口腔外科  
に着任されました。

昭和52年4月, 南雲先生は第二口腔外科学教室  
の助教授に, 7月に倉地先生は講師になられました。  
その後, 南雲先生は昭和56年6月に教授になられ,  
口腔外科学の教育, 研究, 臨床に取り組んでこられ  
ました。特に科学研究費補助金の採択率が高いこと  
は衆目の認めるどころだと思います。

平成15年9月, 倉地先生はインプラント科の初代  
診療科長になられ, 平成17年3月に員外教授になら  
れました。先生は口腔外科学の臨床の水準を高める  
ために種々の基礎的ならびに臨床的研究をなされま  
した。スポーツマンでテニス, ボーリングの腕前は誰  
もが認めるどころです。

佐々先生とは学生時代より親交があり, 徹夜マー  
ジャン, スキー, テニスをしたことなどが懐かしく想い  
出されます。歯学部の開設時に, それぞれ教室は違  
え助教授として赴任しました。先生は昭和55年4月  
に教授になられ, 小児歯科学の教育, 研究, 臨床に  
熱心に取り組まれました。また, 毎年のように数多く  
の入局者があり, 「神様, 仏様, 佐々様」といわれる  
包容力のあるお人柄によるものと感心致しておりました。

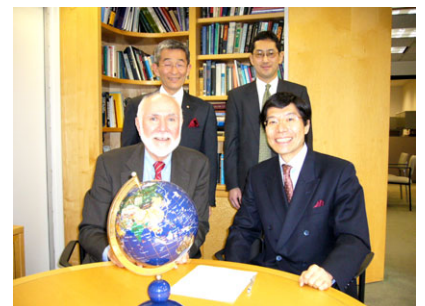
最後になりましたが, 今後とも健康に留意され, ま  
ますご活躍されますことを心より祈念致します。



した。USCは125年の歴史を誇る米国西海岸で屈指  
の総合私立大学です。歯学部はバルチモアについて  
全米で2番目に古く, 生存している同窓生が約9000  
名います。ちなみに, 国際渉外担当副学部長の  
Sekiguchi先生は日系米国人で始めて米国歯科医師  
会の会長に就任しました。USC歯学部はSlavkin学  
部長が全面的にPBLを導入して以来, 人気は急上昇し,  
昨年度の入学試験では150名の募集に対して全米  
から3000名の志願者があったそうです。歯学部は4  
年制ですが, このほかに2年制の海外歯科医師のコ  
ースと歯科衛生士のコースがあります。歯学部学生  
を見ても, 日系を含め多様な人種構成でした。

USCのメインキャンパスはロサンゼルス  
のダウンタウンにあり, 立派な講堂を始め, 各学部の  
重厚な建物, オリンピックプールほかの運動施設など  
が集まっています。歯学部・歯科病院はこのキャン  
パス内の築50年の4階建ての建物で, 3階に大治療  
室があり, 3年生と4年生がStudent Dentistとして  
臨床実習に従事していました。メインキャンパスと  
道路1本を隔てたUniversity Village内には, 瀟洒  
な内装で最新の設備を備えたOral Health Center  
(ユニット25台)があり, Faculty memberが治療  
にあたっていました。また, メインキャンパスから  
車で30分くらいにあるHealth Science Campusには,  
医学部, 附属の3000床の教育病院, 薬学部, およ  
び関連の研究所があります。ここに歯学部のメイ  
ンの研究センターであるCenter for Craniofacial  
Molecular Biologyがあり, 日本からの研究員も含  
めて40名ほどのスタッフが, 研究に従事してい  
ました。このセンターの会議室等も学生のPBLに  
使い, 両キャンパス間をバスが30分間隔で運行  
しています。

今回の交流プログラムでは, 歯科の生涯教育に  
関する連携, 教育資源の交換, 教員と学生の派遣  
(臨床実習), 基礎および臨床研究共同プロジェクト  
の推進等について合意を得ました。当初の学生の  
交換を是非とも推進したいと考えています。また,  
平成19年度にハワイで両大学の同窓生向けにポ  
ストグラジュエートコースの共同開催の検討を  
開始します。本歯学部の多くの学生, 教員およ  
び同窓生がUSCとの交流に積極的に取り組むこ  
とを期待しています。



### 米国南カリフォルニア大学歯学部と交流 プログラムを正式に調印

歯学部長 宮崎 隆

本歯学部と米国ロサンゼルス  
の南カリフォルニア大学(USC)  
歯学部とは, 昨年以來 PBL の  
研修等で交流を深めてまいり  
ましたが, 去る2月2日に, 上  
條教授と一緒に USC 歯学部  
を訪問し, 先方の Slavkin 学  
部長と両歯学部間の交流プロ  
グラムの調印をしま

## 最終講義を終えて

顎口腔疾患制御外科学教室 南雲 正男

最終講義を1月20日に終え、退職まで1か月あまりになったのですが、まだいろいろな仕事や残務整理に忙殺され、退職するのだという感慨がわいてきません。このような原稿を書いていますと、桜の咲く頃に退職をするのだということを意識しますが、



桜の咲く頃という、かならず若い頃傾倒していた梶井基次郎の「桜の樹の下には」という短編小説の有名な冒頭の一節を思い浮かべます。梶井の小説の中では「冬の蠅」という小説が好きで、これまでの私の人生観に少なからず影響を受けました。話の筋は弱って部屋の中に入り込んでいた蠅が、その住人が気まぐれで2-3日旅行に出かけたため、部屋が冷えてしまって死んでしまうという単純なものです。この頃は丁度日本にマルクス主義が紹介された時期で、おそらくそれに影響されて結核で療養している自分を冬の蠅になぞらえ、自分の生殺を握るものの存在を漠然と意識して書かれたものと思われまふ。大学卒業以後は全くといっていいほどいわゆる純文学とは縁遠くなってしまいましたが、4月以降は暇になりますので、梶井をはじめ十代後半から二十代前半に読んだ本を読み直してみたいと思っています。

私は臨床家ですが、常々大学における研究の重要性を強調してきました。教育に力を注ぐことは当然のこと、診療も臨床教育に不可欠であり、またより専門的で良質な医療を提供することも医系大学の使命です。しかし、研究が教育と診療の狭間にあってはならないと考えます。研究成果が背景にあれば教育はより説得性を増しますし、診療において新たな治療法の開発に繋がることもしばしばあります。教育・診療

には経験が必要で、従って若い人達が直接教育にタッチすることは少ないでしょうし、診療においては早く医療に貢献できるよう謙虚にそして誠実に研鑽し、経験を積むべきです。

一方、研究においてもある程度の経験は必要ですが、若い人でも優れた発想をし、



はっと驚くような研究成果をあげることができます。これが研究の醍醐味であり、また言うまでもありませんが、優れた研究成果は自らのみならず学部、大学の評価を直接高めまふ。基礎講座では診療を行いますので、研究の重要性はより増すものと考えまふ。

人は自分の可能性についてはまったく知り得ません。ならば、自分の可能性は無限と信じて努力すべきでしょう。大学に席をおくのであれば、受け身に過ぎるのではなく、学部や大学に自分が何が出来るかを考え、自分の可能性を信じて努力して欲しいと思います。

今年の私はこれまでの様に「桜の樹の下には」の冒頭のフレーズをつぶやきながら無心に桜を見る事が出来るのでしょうか。「桜の樹の下には屍態が埋まってる！」というフレーズを。

## 南雲先生への感謝の気持ち

—バレー部OB—

顎口腔疾患制御外科学教室 葭葉 清香

私はこれまでの人生において、たくさんの人と出会い、たくさんの事を吸収し生きてきました。その中でも、大学においてバレー部に入部したことで、南雲教授に出会ったことは、今の私に無くてはならない出来事であったと思っています。

私が教授に初めてお会いしたのは、昭和大学のバレー部がオールデンタルの主管をすることになり、教授にバレー部の部長になって頂くことになった時でした。「威ありて猛からず」という言葉の様に、毅然とした態度の中にも、とても温かみのある教授の人柄が大好きになりました。主管したその大会で男女共に準優勝出来たことは、一生忘れられない思い出となると思います。そして教授がその時の写真を教授室に飾って下さっている事が本当にうれしかったです。



卒業したら口腔外科に進もうかなと何となく考えていた私に、やはり口腔外科に進もうと思わせたのは、教授の存在がとても大きかったと思います。入局して、改めて、教授の偉大さと、医局員に対する思いやりの深さに、尊敬の気持ち

が深くなりました。

今年1月に行われた最終講義には、各教室の諸先生方をはじめ、旧第二口腔外科を退職された先生方も駆けつけて下さり、とても盛大に行われ、教授の最後の講義としてふさわしいものとなりました。

最後に、南雲教授今まで本当にお疲れ様でした。たくさんの感謝の気持ちでいっぱいです。

## 最終講義を終えて

小児成育歯科学教室 佐々 龍二

本年1月26日の最終講義には学生はもとより教授の先生方、また医局員の方々、ご多忙の折多数出席していただき感謝に堪えません。元より優柔不断、付和雷同の小生の講義、何時もの平常心を失って講義内容がチンプンカンプン、皆様にご迷惑お掛けしたと思っております。



さて、早いもので28年間の昭和大学での生活も3月末を持って終わります。わたしの専門は小児歯科学、小児疾患を診ていると人の一生のプロセスの一部を垣間見たり、人間の本质を知ることが出来、その意味では歯学の中では貴重な分野ではないかと、今となっては小児歯科を研鑽してきたことに大変満足しております。人の一生は区切り区切りの人生で多くの方は結婚して子が出来、また新しい人生がはじまるのです。養育者も恐らく子どもから多くの知識を得ているのではないのでしょうか。子どもは正直者で、考え方も単刀直入、自己中心的です。それは当たり前のことで、成人に至る過程で自から学習していくのです。

最近の日本では子どもを犠牲にする事件が頻発しています。憂いべきことです。何が原因でこのような事件が勃発するのか、大人の身勝手手がひょっとしたら原因かもしれません。確かに現代の競争社会に勝ち抜くためには多少周囲の人間を犠牲にしなければ生き残れないかもしれませんが、そのターゲットを子どもに向けてしまうのではないのでしょうか。

私は歯科医であり、教育者であり、研究者として今まで学究生活を送ってきましたが、遂に自分の信念とは何かと考えたとき、咄嗟に頭の中に浮かんでこないのが一抹の不安感として心の隅に残っております。しかし、歯科医学研究は無限です。私の一抹の不安は恐らくこれからの若い人の力によって解決されることを望んでいます。一步一步、着実に歩いていくのが人生で、その中で個人個人が切磋琢磨しながら知識を得、その知識を患者に還元するのが医療人の責務でしょう。

昭和大学では1期生から25期生まで小児歯科の講義を行ってきました。私の喜びはこれら2,500名余の学生と接したこと、また教室員のお陰で多くの研究や診療が出来たこと、これが私の



終生の宝物として大事にしておくつもりです。

最後に昭和大学の歴代の理事長はじめ多くの方々のご支援に対して心から御礼申し上げます。

## 佐々龍二先生、長い間ありがとうございました —柔道部OB会会長として—

口腔リハビリテーション科 高橋 浩二

佐々龍二先生、柔道部顧問として、後輩に対し愛情のこもった御指導を約二十年間に渡り御与え下さり、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

柔道部は医・歯・薬・保健医療学部の学生が、仲良くしかし互いに切磋琢磨しながら練習、試合を行っているクラブで、いわゆる垢抜けない、汗臭い運動部です。学生時代は硬式テニスをおやりになり、スマートな体形でいらっしゃる佐々先生から御覧になれば、柔道部は坊主刈りのマッチョやXLサイズが蠢く対極の運動部であったと思います。その先生に柔道部の顧問を御願ひした張本人は、私でした。私は学童期(佐々先生に習った言葉です)より柔道を始め、柔道の総本山である講道館にはしばしば足を運んでいました。その講道館の青畳の上でよくお見かけしたのが誰であろう佐々先生の御父様(佐々龍雄先生)でした。佐々龍雄先生は講道館の高段者(赤白帯の七段!)の内科医で柔道少年にはあこがれのヒーローの一人でした。見た目も佐々先生によく似ておられ、私が歯学部4年生に進級し、小児歯科学の講義で初めて佐々先生を御目にした瞬間に「講道館の佐々先生」の御子息だとピンとききました。以来、勝手に佐々先生には親近感を持たせて頂き、講義の時にははしぐさなどが親子で似てらっしゃると感心しきりで、お陰で講義内容をかなり聞き流しておりました。

さて昭和62年10月に柔道部に情熱を注いで下さった歯学部初代顧問の松本章先生が北海道大学にご赴任された後、当然の流れで佐々先生に第二世代目の顧問になって頂きました。私にとっては当然でも佐々先生にとって



は晴天の霹靂のようで「高橋君さあ子供の頃から親父に誘われてたけど、柔道はきらいでしよがなかつたんだよ。」とおっしゃっていました。そのようなご発言とは裏腹に本当に熱心に部員に接して頂き、私の知る限り年二回の行事にほとんど毎回出席され、また大会長を御引き受け下さった他、全歯体などにも応援に来て下さいました。その都度本当に暖かい言葉を部員達におかけ下さいました。

佐々先生本当に長年有り難うございました。いつまでも御元気で。柔道部一同、礼!

## 平成18年度歯学部入試

歯学部長 宮崎 隆

1月28日(土)に平成18年度の歯学部選抜Ⅰ期試験、センター入試(大学入試センター試験利用入学試験)が旗の台キャンパスと大阪会場(阪神学園浪速予備校)で行われました。当日、東京・大阪は平年並みの肌寒い陽気でしたが、両地とも晴れでよい天候に恵まれました。

選抜Ⅰ期の志願者数は全体で606名となって昨年よりも18名増加し、昭和57年以降で最大の志願者数となりました。このうち大阪会場に118名もの志願者があり、昨年より44名の増加となりました。

合格発表は1月31日に行われ、55名(男子30名、女子25名)が合格しました。センター入試は、昨年より47名増の185名の志願者がありました。そのうち30名が大阪会場の志願者でした。合格発表は2月9日に行われ、10名(男子7名、女子3名)が合格しました。このように、選抜Ⅰ期、センター試験ともに大阪会場の受験者が増加し、大阪会場の認知度が高まってきたといえます。

3月5日には選抜Ⅱ期試験が行われます。職員の皆様にはご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 認定医取得

広報委員長 五十嵐 武

う蝕・歯内治療学教室の

・増田 宣子 先生

・木下 潤一郎 先生 が、

日本歯科保存学会認定医を取得されました。

おめでとうございます。

## 行事予定

広報委員長 五十嵐 武

3月5日(日):選抜Ⅱ期入学試験

3月17日(金):卒業式・卒業証書伝達式・謝恩会

3月24日(金):大学院歯学研究科修了式

3月25日(土):歯学部ハイテクリサーチセンター・平成17年度研究成果発表会

3月30日(木):登院式(新5年生、歯科病院にて)

4月3日(月):平成18年度進級式

(新2, 3, 4, 6年生)

4月3, 10, 17, 24日(月):新D3 顎口腔PBL実習

4月7日(金):入学式・入寮式

## 診療統計

医事課 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	16,149	769	832.3	749.1
入院患者	278	9	11.5	10.7

平成18年1月分

## 平成18年度臨床研修医採用試験結果

総合診療歯科 長谷川 篤司

平成18年1月7日(土)に実施された臨床研修歯科医追加採用試験の結果が、2月1日(水)に発表され、新たに39名が合格いたしました。この合否は1月7日の採用試験に臨んだ受験者54名の出願書類、面接試験、歯形彫刻試験、小論文試験の成績の総合評価により決定されました。

この結果、昨年12月15日に発表された歯科医師臨床研修マッチングによって研修歯科医として内定している71名(昭和大60名、他大学11名)に、この39名(昭和大25名、他大学14名)が加わり、平成18年度臨床研修歯科医110名全員が決定いたしました。

採用された110名の出身大学別内訳は、昭和大85名、日本歯科大17名、奥羽大3名、松本歯科大2名、日大松戸1名、鶴見大1名、明海大1名でした。

## 編集後記

広報委員(口腔生理学教室) 中村 史朗

年度末にさしかかり、慌しい中原稿を執筆して下さった先生方に厚く御礼申し上げます。

今月号は、3月で退任される二人の教授に、最終講義を終えての記事をご依頼する機会をいただきました。大変お忙しい中、原稿の依頼を快くお引き受けいただき、ご執筆くださいましたことに、心より感謝申し上げます。昭和大学歯学部の歴史と、退任される3人の先生方の昭和大学への多大なる貢献に、改めて深く敬意を感じました。

2月は入試の時期でもあり、4月から新入生が歯学を志して入学してきます。先生方が残して下さった大きな歴史と伝統が新しい世代に受け継がれていくことを祈念しております。3人の先生方本当に長い間、お疲れ様でした。